

退任にあたって

OR学会前会長：三菱重工業株式会社 取締役会長 **大宮 英明**



去る4月27日の総会をもって会長を退任しました。理事、監事をはじめ、会員ならびに事務局の皆様のご理解とご支援のもと、会長在任の2年間、滞りなく職務を果たせたことに感謝申し上げます。

私とORとの関わりは、大学時代に近藤次郎先生の授業を受けたことにまでさかのぼります。三菱重工業に入社後も航空機の設計技術者として飛行の制御安定や飛行航路の最適化に関する開発に従事し、ORを身近なものと感じていましたが、残念ながらORは課題解決に役立つ実学という点が世間で十分に認知されているとはいえません。

会長在任中は、活性化委員会と連携し、学会の知名度向上に注力しました。東京オリンピック・パラリンピックの開催決定を機に、「オリンピック・パラリンピックとOR」を学会の統一冠テーマとし、特設研究部会を設置、「危機管理」、「エネルギー」、「スケジューリング、ロジスティクス」、「施設、交通」、「人の動きの数理モデル、ビッグデータ」の5つのグループの統括を腰塚元会長にさせていただいております。慶応大学で開催された今年の春季発表会では、特設研究部会が中心となり、「ビッグスポーツイベントとOR—東京オリンピック・パラリンピックを安全・エネルギー・交通から考える—」と題したシンポジウムを開催することができました。

また、学会長として、さまざまな機会で学会のアピールを行いました。東京理科大学で開催された昨年の春季発表会では、「ものづくりとOR」をテーマに特別講演を実施、併せ、マスコミとの座談会も開催しました。筑波大学で昨年秋に開催された「高大連携シ

ンポジウム」では、地域の課題解決に取り組んだ北海道・東北地方の高校生に対し、次代を担う若者への期待など、激励を行いました。なお、筑波大学の高大連携の取り組みは、「地方創生☆政策アイデアコンテスト2015」で701件の応募から1位となる「地方創生担当大臣賞」の受賞に繋がり、筑波大学関係者の励みとなったのみならず、OR学会に大きな喜びをもたらしました。

OR学会の印象といえば、会長就任後初めて参加した2014年8月の北海道科学大学での秋季発表会の際の懇親会です。サッポロビール園に老若男女が集い、大音響のホールでビール片手にワイワイと議論する。他の学会にはない、自由闊達な雰囲気は今後も引き継がれていくことでしょう。

研究発表会では、実際に発表の機会に参加しましたが、ORが実に幅広い分野で活用されていることを再認識させられました。多くの成果が世に示されれば、ORの認知度も必然的に向上していくものと思います。

最後に、数士元会長、腰塚元会長のご尽力で学会は黒字体質が定着しました。2014・15年度の決算も黒字となり、「学生会員の会費無料化の継続」、「論文賞、学会賞副賞、研究部会活動費の増額」「高校生PR用として学会誌3,000部を配布」など、若手OR研究者育成施策および60周年記念事業の原資として活用することができました。

近年2,000名を超える学会員を維持してきましたが、減少の傾向は続いております。こうした活性化策が実を結び、会員数減少に歯止めがかかり、再び増加していくことを切に望みます。